

京
城
日
無

[illegible]

◆家庭で働く少女たちは
女學校に行くお友達を羨むに及びません
◆學歷のない女子もその
不幸な身の上を悲しむことはありません
◆立派な講義がそれらの
少女の幸運を聞くために待つて居ります

◆家庭で働く少女たちは
女學校に行くお友達を羨むに及びません
◆學歷のない女子もその
不幸な身の上を悲しむことはありません
◆立派な講義がそれらの
少女の幸運を聞くために待つて居ります

國語、文法	廣妙高女 大阪府立	宮田 繁 富山 師範
作文	少野高女	三浦 三郎
英語	雙葉高女	谷 紀三郎
習字	山脇高女	宇野 十子
地理	東京府立 東京府立	稗師谷秀次
日本歷史	東京府立 東京府立	山岸 貫治
東洋史西洋史	高木みつ子 成女高女	岩崎 吉勝
礦物、動物	東京府立	和田 精一
植物生理衛生	青田女學院	櫻井 房子
物理化學	工學士	大塚 榮二
西洋畫	女子學藝科	岡野 操
日本畫	浪穂高女	野生司香雪

◀ 行 發 回 二 月 每 ▶

日 一 月 四

國語、文法	廣妙高女 大阪府立	宮田 繁 富山 師範
作文	少野高女	三浦 三郎
英語	雙葉高女	谷 紀三郎
習字	山脇高女	宇野 十子
地理	東京府立 東京府立	稗師谷秀次
日本歷史	東京府立 東京府立	山岸 貫治
東洋史西洋史	高木みつ子 成女高女	岩崎 吉勝
礦物、動物	東京府立	和田 精一
植物生理衛生	青田女學院	櫻井 房子
物理化學	工學士	大塚 榮二
西洋畫	女子學藝科	岡野 操
日本畫	浪穂高女	野生司香雪

◀ 行 發 回 二 月 每 ▶

日 一 月 四

算術	東京府立 第五高等 算術英和	典野 敦子
代數	續演英和	石山 玉子
家專	實踐高女	野田 つと
裁縫	女子美術	赤沼八重子
手藝	三橋田高女	河野齊久子
作法	淑徳高女	永地 待枝
料理	跡見高女	指原 乙子
音樂	上野高女	石橋麗五郎
法制經濟	精華高女	石井 溜
生花	立教高女	吉田 貞子

外に十數名の科外講師が
あります

趣味の雑誌 毎號附錄

初發行

算術	東京府立 第五高等 算術英和	典野 敦子
代數	續演英和	石山 玉子
家專	實踐高女	野田 つと
裁縫	女子美術	赤沼八重子
手藝	三橋田高女	河野齊久子
作法	淑徳高女	永地 待枝
料理	跡見高女	指原 乙子
音樂	上野高女	石橋麗五郎
法制經濟	精華高女	石井 溜
生花	立教高女	吉田 貞子

外に十數名の科外講師が
あります

趣味の雑誌 毎號附錄

初發行

監修
早稻田大學

◆二十餘の名高い高女の諸先生が親切に教へ導いて下さいます。

◆これを讀めば安心して兩親の下で高女卒業の力が得られます。

◆學費は極めて低廉です。

◆一ヶ月(二冊分)僅かに壹圓◆

本日出來

母之友 三號

若米母

りよ

[illegible]

東京帝國大學教授・東京南科大學教授
文學博士 深作安文 先生三名著

巨富松翁を煙したる兎及の一閃思想界を極度に撓亂し人心恟々たり。之を救ふの道は唯外來思想を嚴正に批判して是を日本化せしむるにあり。闘争を好まぬ有産階級及無産階級に本書の一讀を薦む。

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

東京帝國大學教授・東京南科大學教授
文學博士 深作安文 先生三名著

巨富松翁を煙したる兎及の一閃思想界を極度に撓亂し人心恟々たり。之を救ふの道は唯外來思想を嚴正に批判して是を日本化せしむるにあり。闘争を好まぬ有産階級及無産階級に本書の一讀を薦む。

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 思想の意義
第二章 思想問題の起源
第三章 社會主義批判

第四章 集產主義批判
第五章 組合主義批判
第六章 サンディカリズム批判

第七章 無政府主義批判
第八章 國民道德の改造
第九章 國家創作

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

六續外來思想批判

第一章 世界改造の思想的意欲
第二章 デモクラシーの概念
第三章 民主と民本

第四章 人物尊重、人格尊重
第五章 自治、公共
第六章 公民教育
第七章 自由と平等
第八章 自由と平等

第九章 共產主義批判
第十章 反抗と横暴
第十一章 過激主義と義勇
第十二章 警告と樂觀

四定價 六價留 六價留 六價留
一圓一圓一圓一圓
金金金金
三十三十三十三十
錢錢錢錢

[illegible][illegible]

職業

器其一切裁縫
拾參圓

色座敷の手廻に出る
年輪の無味な店員
各地方の無味な店員
各地方の無味な店員
各地方の無味な店員

二葉總本店

大阪屋號

大坂屋號

大坂屋號

大坂屋號

大坂屋號

最新刊

念四九〇

念四九〇

念四九〇

念四九〇

念四九〇

記三増月大考

意らくべ

野村胡堂

丹波村

丹波村

丹波村

丹波村

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

鳥追お菊

鳥追お菊

鳥追お菊

鳥追お菊

鳥追お菊

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

職業

器其一切裁縫
拾參圓

色座敷の手廻に出る
年輪の無味な店員
各地方の無味な店員
各地方の無味な店員
各地方の無味な店員

二葉總本店

大阪屋號

大坂屋號

大坂屋號

大坂屋號

大坂屋號

最新刊

念四九〇

念四九〇

念四九〇

念四九〇

念四九〇

記三増月大考

意らくべ

野村胡堂

丹波村

丹波村

丹波村

丹波村

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

鳥追お菊

鳥追お菊

鳥追お菊

鳥追お菊

鳥追お菊

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

高家衆の妾

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

義朝の最期

三日月 稀 出 衆
 (女男の美・女男の力・女男の愛) 婦人俱樂部
 福幸展發の人

愛されれざる淋しみと
愛し得ざる苦しみ
愛の勝利を得た
人々
獨身生活者の惨い悩みの記録
新時代の婦人の新職業いろいろ
私の所で募集する女事務員
女性至上の幸福は何か
性愛と母愛の考察
關西婦人の特色
石巻の感傷より
「此煩悶を如何に解決するか」
野金のお非運を挽回した経験
貧民の片眼を失った賀川豊彦夫人
大石の貧民の生活
名流流藝術家なる迄の苦心談
顔の美と姿の美と聲の美と
齒を美とせし見法と爪入れ法と
世界各國美人の標準
美しい草花の種類とき
可愛い刺繍のお雛様縫ひ方
訓育上より見ると
喰ひはぐれの三ッ割生活飯野元郎
藏拂ひの御師と大賣内幕話
婦人必讀の有益な讀物
中流家庭向の良内職案内
私の遺失から愛兒三人を失つた悲しい憶出
近頃子供に起り易き
肺炎其他諸病の當法
時時小説壇の雄將が心血を注げる
大蛇返らぬ春
作廢市の戀
蛇の戀
大蛇返らぬ春
作廢市の戀
蛇の戀

臨常局及朝鮮
 されつゝある
 ては既に本紙
 に收むる能は
 ざりしも出

提案全部可決さる

時より會議所三階樓上會議す依つて資料原本とし
開會せられた各地方よりの

京義線
遼陽郡知事
趙殿士

東縣）樺木公司に於て調査中な
りし大正十年底末の在東東木村在民
らざるを以て同地の有

數百五十九萬二千四百五十三
 府當局に對し、岐阜縣
 取附百三十八萬八千六百二十二
 以、最近同地の有志者

關查費八百圓渡等にして歳
ては賦課金二千四百九十圓渡、
要入賦課金一千九百五十圓

木材市況活潑

杉は常緑樹を除き新義州木材
材木、漆酢、鴨綠江木材

目二十餘名中四十餘名の出席あり
 總會頭開會の辭を述べ之が速成
 する各委員の意見を叩く處あり

が完成は一つに釜山官民一致の
を以て達成せざる可からざる性

ものなりと信ずれば偏を眞の如
合階級より擧げて清濁なきを聞
事をとの新演説あり結局伊藤

▲大池忠助 ▲追間房太郎 ▲坂

海軍の三都に連合の水稻立毛は目下實地に就き各技術者に依

勝者に對する撫狀授與式は立派な會儀狀授與式と共に來る二十

の賭氏なり
十二年度に

する陣情の爲滿鐵本社に出頭
安東民團行政委員會議議長荒

氏は二十一日午後五時四十分
にて歸安したるが満鐵本社に
局者に會見したる狀況に就て

すべしとの事なりしを以て荒
然らば大正十二年度に於て必
ずる事を承認する旨の旨明を

慙命が見えすいて來たの
過般來當業者一同之れが

に寄りかたまつたものである。來釜山の商工業の中心となるの古巣に返り咲きたいと

【安東縣】 来る四月一日安東
に本校する一年生児童のト
検査を去る十七日正午より同

十六名合計廿六名にして、百八
四、五三なりしと、内に當日

て検査を受くべしと

る事となるべし而し毎年兒童を見るは明かなるを以て大正に到らば現在の第一小学校

別個のものとして此の趣旨
期すべく左の如く規定を設
内地人に在つては道俗的に

一、時間の履行
二、献酬を廢する事
三、電氣上水等を濫費せ

校輯の通りであるが株式置死
ム廿日を以て一株に就き二圓
證據金を拂込ましむる事と

一證券金融及び信託業務等を
として株式会社経営と云

り以前同様先づ奉天、鐵嶺
三地とし更に必要に應じて

▲内田君嘗て日髭を剃り
左を稍深く落す、骨稜な

底をう。演説も漸次闊然し、
 即ちの紋に巧に乗る。頭髮は
 むは白い、まさが口端に白

年よりヨリ多く若く見え
が若いから乎、内田君には
ハの若返り法は必要だ。

▲加々尾釜山署長 國境

▲島上秀一氏(沙里院東拓
病氣靜養の爲め近く内地

▲齊藤欣二氏（新潟州高
長） 學事視察の爲め福

大 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

大景品附特別大賣出し

三八五七
四四八二
愛知縣蒲田郡常盤村大柳
山口縣豐浦郡神田村象戶

一三三 青森縣三月郡八戸町寺岡町
一三二 兵庫縣武庫郡成尾村
一二〇 新潟縣岩船郡平林村
一三七 石川縣羽咋郡開公村梨谷小山
一三六 生田縣

一四二五	一〇二四	一〇五〇	一四二五
一六九七	二四四〇	四九四五	四九二一
一一八一	四七八〇	四二六一	三四四〇
四七五	三二五	四九五一	一一七

四五一	四七六	三〇四	三九三
三六〇	四八三	三五五	四五六
三七八	三六九	三五七	五一七
四二八	三〇四	三九三	五二九

八等特製人蔘エキス 十二
壹個宛

小金井 荻洲 講演

[illegible]

京平木町電話所 一四八六番
 津村兄弟商會
 二月二十六日
 金曜日 正月廿三日 丑
 日曜日 正月廿四日 寅
 月曜日 正月廿五日 卯
 火曜日 正月廿六日 辰
 水曜日 正月廿七日 巳
 木曜日 正月廿八日 午
 金曜日 正月廿九日 未
 土曜日 正月三十日 申
 日曜日 二月初一日 酉
 月曜日 二月初二日 戌
 火曜日 二月初三日 亥
 水曜日 二月初四日 子
 木曜日 二月初五日 丑
 金曜日 二月初六日 寅
 土曜日 二月初七日 卯
 日曜日 二月初八日 辰
 月曜日 二月初九日 巳
 火曜日 二月十日 午
 水曜日 二月十一日 未
 木曜日 二月十二日 申
 金曜日 二月十三日 酉
 土曜日 二月十四日 戌
 日曜日 二月十五日 亥
 月曜日 二月十六日 子
 火曜日 二月十七日 丑
 水曜日 二月十八日 寅
 木曜日 二月十九日 卯
 金曜日 二月二十日 辰
 土曜日 二月二十一日 巳
 日曜日 二月二十二日 午
 月曜日 二月二十三日 未
 火曜日 二月二十四日 申
 水曜日 二月二十五日 酉
 木曜日 二月二十六日 戌
 金曜日 二月二十七日 亥
 土曜日 二月二十八日 子
 日曜日 二月二十九日 丑
 月曜日 二月三十日 寅

[illegible][illegible][illegible]

ミツ子家庭奮闘文庫十二・二

園牛の語

相模のやうに大開關原など
牛の字に從ふ綱取の字に
松本幸四郎談



西班牙の驢牛がありますことは、世界に於てですが、關原の役にも、現在でも農村の娯樂としても、驢牛の風習が遺つて居るやうでございます。驢牛と申しますのは、俗に相模のやうに、東西に別れて、大關、關原、小關等の別を立て、三半は三才、四半は四才といふ風に、同じ年の牛を取組ましますのが普通で、何れも五色の紐で、袢褸を前か

坂は悉く泡沫に混つてしまひますから、そこを速水でひきますと汚染は悉くうち盡して、立派な脂肉に鼻から脂ひります。それから

口を「お驢牛く、お化粧に寄さるゝ薬物でございすが、お手當一ついします。それにんだお化粧が施します。それがは先づミツ子に流し流ししましたあさの肌膚、白粉

酒類代
 販賣原裝
 日本酒造會社

[illegible]

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

大正廣報社
場牧亞
(番二五話)

純全乳
朝鮮乳

各種卸商

杉本文

商店

電報 釜山 六郎 四八番

△鐵筒貯蔵専用
純全乳

原香
水料
オリヂナル

三十八種の高尚な
優しい花の薫りは
戀への人の心を愉
快と平和に誘ふて
居るからです

大阪工場擴張祝と釜山驛頭
開店一週年記念として
總コム靴特價賣出し在庫品拾萬足に限り
賣出し期間三月十日迄

▲王職師用
▲馬車
▲東
御用文部省特許品登録中上級 千代田國總裁會館註冊 手帳用

[illegible]

警九八五五福京警出

